

# あいち健康の森健康科学総合センター整備基本調査の結果を 踏まえた本県の方向性について

## 1 基本調査について

今回の基本調査において、健康科学館、プール、アトリウムの減築について、課題等の整理をし、減築改修計画の検討を行った結果、以下の内容が確認された。

### (1) 構造強度について

健康科学館及びアトリウムの減築は、残置する建物（健康開発館、健康情報館、健康宿泊館）の強度に影響はない。プールについては、健康開発館の一部となっており、この西壁面に耐震壁を設置することにより、強度は補完される。

### (2) 雨水対策について

アトリウムについては、減築することにより屋外化されるため、アトリウムと接している建物に外壁を設置し、アトリウムの床の防水及び排水溝の設置を行うことで、建物への雨水の流れ込みを防ぐ対策を行う。

### (3) 動線計画について

現状では、アトリウムが各館への動線となっているが、減築することにより、新たな動線の確保が必要となる。東側（ロータリー側）、西側（公園側）に新たな出入口を設置するとともに屋外化した部分においても南北（健康開発館と健康宿泊館）を結ぶ出入口を設置し、各館の動線を確保する。

### (4) 特定天井について

建築基準法に基づく大規模な吊り天井（特定天井（※））に該当する箇所として、宿泊館のプラザホール、健康開発館のアスレチックルーム・フィットネスルーム・体育館が該当するため、天井の脱落対策を行う必要がある。

（※）6 m超の高さにある200 m<sup>2</sup>超の吊り天井

### (5) 減築によるコスト削減効果について

健康科学館、プール、アトリウムの減築を行うことにより、20年間で施設管理費・光熱水費約24.5億円の削減効果が見込まれ、それ以外にも減築する建物設備に係る更新修繕費が約9.2億円削減できる。減築工事費約19.2億円を差し引いても約14.5億円の削減効果が見込まれる。

### (6) 工事期間について

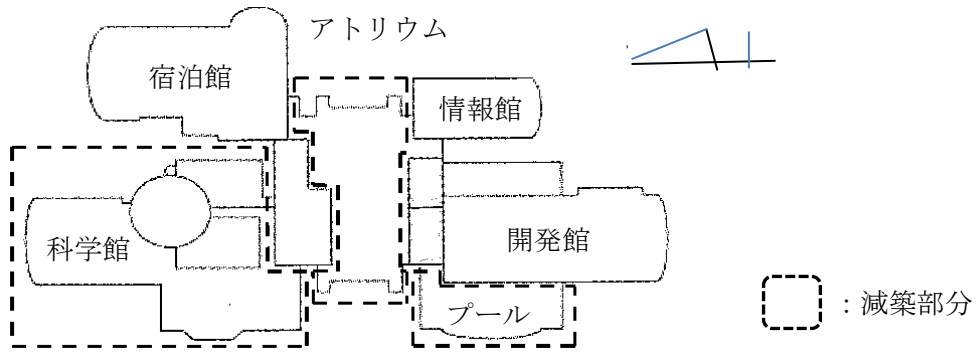
全体の工事内容・工程等を整理した結果、約22か月が必要と見込まれる。

## 2 調査結果を踏まえた県の対応

調査の結果、健康科学館、プール、アトリウムの減築について必要な対策を行うことによって減築は可能であり、技術的には特に問題はない。また、コストにおいても中長期的に多額の削減効果が見込めることから、この3箇所の減築工事を進めることとする。

また、特定天井の脱落対策においても、利用者の安全確保のため、減築工事と併せて実施することとする。

## 減築イメージ



## (参考) 想定スケジュール

29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度～
基本調査 (終了)	基本設計	実施設計	入札等 手続期間	減築・改修工事 (約22ヶ月)	供用開始